

養殖体験観光に尽力

採れたて食べる姿に喜び

志津川支所戸倉青年研究会（西條信和会長）のメンバーは33人。カキ、ワカメ、ホタテ、ホヤ、ギンザケなどの養殖者が多く、南三陸町観光協会から委託を受け、光協会から委託を受け、洋上体験プログラムを積極的にやっている。

戸倉青年研究会

「海から学ぶプログラム」と称し、観光協会が行っている数々の体験観光のなかの人気企画のひとつ。今期すでに500人を受け入れている。体験希望者は東京などからも多く訪れ、とくに子どもが多いという。船に乗って養殖漁場まで行き、南三陸が誇る海の幸がどのように養殖されているかを見学。見せ

ギンザケ養殖を営む副会長の須藤清彦さんは「採れたてのものを食べて喜んでる姿を見ると

われわれもうれしい。子どもたちの食育につながる」と話す。同じくギンザケに養殖する会計の須藤貴雄さん（当組合本部青年部副部長）は「食材となる魚介がどういうふうに養殖されているのかをぜひ見てもらいたい。戸倉の海を広く発信してもらえれば」と願う。



④右から須藤清彦さん、小野寺喜義さん、須藤貴雄さん、志津川支所戸倉出張所の星昌孝さん ⑤海から揚げたばかりのカキに見入る体験者の子どもたち（南三陸町観光協会提供）

40年近い歴史がある同研究会。埼玉の高校生150人を受け入れるなど、体験学習には昔から力を入れてきた。震災の被害も大きかったが、いまこそこうした事業が必要だという意識は皆に共通。

「みやぎ海の子作文」表彰 女性部連絡協議会 海・家族への誇りを作品に

当組合女性部連絡協議会（江刺みゆき会長）が主催する第32回「みやぎ海の子」作文の表彰式が、1月6日、石巻グラ

た。この活動は、子どもたちの「海を愛する心」を育てることを目的とし、県内沿岸に住む小学生を対象に、毎年募集・審査・表彰を行っているものです。

とも増え、漁民同士の交流も盛んになった。浜の活性化にもつながっている」と須藤貴雄さん。洋上体験のほか、アワビの稚貝放流、磯焼け対策のウニ駆除など、海の資源保護、環境づくりに余念がない。地道な活動を行うことで、将来の浜をさらに豊かにし、いいものを作って値がついてくれば、海の仕事にもっと魅力が出てくるはず。若い人たちが希望をもつて戻ってこられるよう、次代の浜を見据えている。

第32回「みやぎの海の子」作文入賞者

部	賞	題 名	氏 名	学 校 名	学年
第一部	宮 城 県 知 事 賞	大すきな海	穀田 稔哉	気仙沼市立小原木小学校	2年
	宮城県漁協経営管理委員会賞	みやぎ海の子	内海 和紗	石巻市立万石浦小学校	2年
	宮城県漁業共済組合賞	お父さんとお母さんのしごと	菅野 頼那	石巻市立東浜小学校	3年
	宮城県JF共済推進本部賞	大すきなういそ海	鈴木 聡祐	石巻市立寄磯小学校	2年
	宮城県漁船保険組合賞	わたしの家ぞく	古内 柚羽	石巻市立東浜小学校	2年
	宮城県漁業信用基金協会理事長賞	はじめての開口	今野 由菜	南三陸町立戸倉小学校	3年
	農林中央金庫仙台支店賞	楽しみだったウニの開口	澤田 奏音	南三陸町立戸倉小学校	3年
	宮城県漁協女性部連絡協議会長賞	うみ	浜畑 侑生	石巻市立寄磯小学校	1年
	宮 城 県 知 事 賞	海にもマナーやルールがあるのです	石川 姫菜	女川町立女川小学校	6年
	宮城県漁協経営管理委員会賞	私のおいちゃん	阿部 有希	南三陸町立伊里前小学校	4年
第二部	宮 城 県 漁 業 共 済 組 合 賞	初めての経験	渡辺 帆香	石巻市立寄磯小学校	6年
	宮城県JF共済推進本部賞	海の町 荒浜	木村 心咲	亘理町立荒浜小学校	4年
	宮城県漁船保険組合賞	カキの養殖体験	小松 創	気仙沼市立唐桑小学校	6年
	宮城県漁業信用基金協会理事長賞	春の楽しみ	柳橋 凜佳	石巻市立東浜小学校	5年
	農林中央金庫仙台支店賞	ウニの開口の日	渡邊 愛海	石巻市立寄磯小学校	6年
	宮城県漁協女性部連絡協議会長賞	大人になったら	星 海聖	南三陸町立戸倉小学校	4年
	宮 城 県 知 事 賞	海と共に生きる	阿部 龍斗	石巻市立荻浜中学校	3年
	宮城県漁協経営管理委員会賞	海と共にあること	石森 未夢	女川町立女川中学校	3年
	宮 城 県 漁 業 共 済 組 合 賞	大島の海	村上 汐里	気仙沼市立大島中学校	1年
	宮城県JF共済推進本部賞	父の仕事	末永 妃菜	石巻市立万石浦中学校	3年
第三部	宮城県漁船保険組合賞	あの日が来てから	鈴木 奈桜	女川町立女川中学校	3年
	宮城県漁業信用基金協会理事長賞	大好きな海	阿部 華乃音	気仙沼市立大島中学校	1年
	農林中央金庫仙台支店賞	私の家の仕事	阿部 華琳	石巻市立荻浜中学校	3年
	宮城県漁協女性部連絡協議会長賞	海の環境問題とその影響	中野 恋	気仙沼市立唐桑中学校	2年

書いた気仙沼市立小原木小学校2年の穀田稔哉く

ん、海でのマナーの大切さを書いた女川町立女川



協同組合論

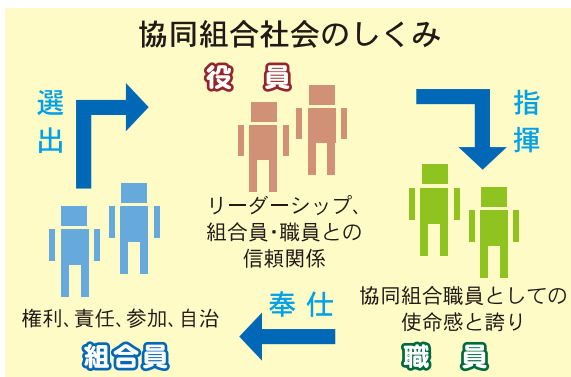
北海学園大学経済学部教授
濱田 武士

7

協同組合という「社会」を考えます。この社会は、組合員が自分たちの仕事や生活をより良くするためにつくられるのですが、共通の利益のために皆が出資して事業を実施します。そして、協同組合社会には、立場が違っても組合員、役員、職員という構成員がいます。組合員は、この社会の運営を自分たちが選んだ役員に託します。役員は職員を雇い、職員に現場の実務を任せます。職員は、役員の下で

組合の「しくみ」が奉仕実現

組織的に組合員たちの協同の事業をサポートし、組合員に奉仕します。よく考えてみれば、協同組合がつくる社会は、国民がいて、議員を選ん で、国の運営を任せ、政府が役所に国家運営の公務を担わせるというものと似ています。似ているだけに、協同組合にも「官僚制」が形成されま す。官僚制と聞けば、あまり良い印象がないかもしれませんが、組織が大 きくなればなるほど、役員は職員に運営の権限をある程度託すしかありませんし、規律正しく組織を運営しなくてはならなくなるため、どうしても託すことが必要になって きます。必ずしも官僚制が「悪」というわけでは ありません。しかし、官僚的組織では、組織運営に柔軟性を 持たせるのが難しい一方、職務上の専門性をも つ故に職員組織主導の運



ならば、組合員の要望を受け付けられますが、役員や職員はそれぞれの立場で物事を判断しなければならぬから、慣例の範囲を逸脱する場合は受け付けられないのです。役所も同じです。ならば、多くの組合員のためになるものであれば、慣例にならなくても、役所も受け入れられないのでしようか。協同組合ですから、そうではないはず。ここで大事に

授賞式には来賓として漁協系団体、県農林水産関係者などが出席し、受賞者に記念品が授与されることも、受賞全作品をまとめた冊子が来場者全員に配られました。



宮戸支所・阿部信弘さん



頭も使い手もかかる ノリ養殖30年

阿部信弘さん(48)は、ノリ養殖漁家の3代目。この時期は信栄丸で毎日作業に忙しい。小さな頃から両親の働く姿を見てきた。小学生の頃には、手伝われるのがいやで「そこそと隠

たいへん。手伝いでやっているうちはまだよかったが、自分が仕事のかけひきをして一家を支えるようになる、常に家計も考えなくてはならない。給料をもらってくる18歳でノリ屋になつて

すぐに入った青年部でもさまざまな議論をしてきた。「この地区は和気あいあいとして、互いにアドバイスや協力もするんで、そういう面では非常にいいところ。」震災後はグループで養殖。11月の初めから4月下旬までは、毎日夜中の1時半に起き、夜8時半まで機械を動かして、就寝は9時という生活。休めばノリが伸びてしまふから休みもない。ここで生活していく

分には、人より余計に採らなきゃならない。ノリの養殖は、毎年が一年生といわれる。毎年気象や海況が違って、その年その年に合ったノリ作りをするしかない。「師匠によく言われるのは『ノリと話をしろ。ノリが訴えかけてっぺ』。ノリの話を傾け、こういふこと言ってるような気がするなあと思つて、経験を踏まえて進めても、やっぱりダメなときもある。そういうときは人から聞いて自分なりにアレンジし、正解にたどり着くしかない。昔の人はよく『子どもを育てるのと一緒』と云った。投げっぱなしでもダメだし、過保護にしてもダメ。子育てと同じくらい難しい。毎年、普通に育ってくれず、それを工夫して立派な大人に育てるのがすごくたいへんだという。よその浜からは、うちの浜はいつまでもノリの色がよく、いい漁場だと言われるけれど、こんなに育てるのが難しい漁場はない。」震災の年、千葉委員長が号令で「残るヤツは全海に向かっている。

強盗想定し訓練



緊張が走った石巻総合支所金融センターでの防犯訓練

防犯意識高め 冷静対応学ぶ

石巻総合支所金融センター

当組合石巻総合支所金一トルを発売、500万円融センターで強盗がピス円を奪って逃げた。

という防犯訓練が、昨年12月中旬に石巻警察署の協力で実施され、緊迫に包まれた。強盗役の警察官は閉店間際、ATM(現金自動預け払い機)側の入り口から客を装って店舗に侵入。カウンター越しに女性職員の腕をひねり上げ、ピストルを天井に向け発砲。「金を出せ」。ドスのきいた声で怒鳴る。店内に緊張が走った。強盗は500万円入りの紙袋を持つ別の女性職員をにらむ。「こつち持つてこい。早くしろ」と有無をいわせぬ迫力。カウンターから出る職員の腕をつかむと人質にして出口に向かい、紙袋を奪って逃走。男性職員がカラーボールを手に勢いよく飛び出し追った。わずか40秒の出来事だった。石巻署の警部補は講評で「最近、銀行強盗は少ないが、年末を迎え全く起これないとはいえない。常に防犯意識を持つてほしい。自分の目で見て確認したことを通報する」と話した。身長や着衣把握の重要性を強調。同センターの泉浩明センター長は「思つたより迫力があつた。身長を見ている職員がいなく、非

チョコー引き受け基準緩和 病気、服薬中でもチャンス

共済からのお知らせ

JF共済「チョコー」

尿などの持病や病気で通院、服薬中の方にも加入のチャンスが生まれました。詳しくは同封のチラシをご覧ください。当組合共済窓口でもご案内いたします。

があさんのおもてなし

歌津支所女性部

生協料理教室で魚食普及



手際よく指導する三浦弘子部長(中央)と熱心な受講者

昨年12月7日、石巻市歌津支所女性部が料理教室を開きました。これは宮城県漁協女性部連絡協議会(江刺みゆき会長)が、年に4回、各支所女性部の協力を得て実施して

いるもの。地域住民と漁村の女性との交流を通して魚食普及を目指しています。7月に石巻地区支所女性部が「かつおの海鮮餃子」など、9月に浦戸支所と浦戸東支所の女性部が「アナゴ丼」などの指導をしたのに続き、今年度3回目。メニューは「ホタテのまぜご飯」「ふりの味噌汁」「ホタテのフライ」「ホタテヒモの中華風酢の物」の4品。生協と新聞で募集をし、主婦を中心に16人の受講者が集まりました。先着順でしたが、キャンセル待ちが出たほどの人気。「作るかいがある」と同女性部の面々も顔をほころばせていました。歌津支所女性部は部員48人。町や漁協の行事で魚食普及の活動に協力しているほか、救命胴衣着用推進運動や環境保全運動など、積極的に活動しています。今年度は、インターネットを活用した商品の販売やPRなどの方法を研修するなど、新しい知識の習得にもチャレンジしました。震災前は、イベント時にホタテご飯などを干食も販売。間もなく出来上がる支所事務所には厨房がないため、かつての規模での活動は難しいのですが、「こうした施設をお借りして魚食普及活動をやっていく方法を考えていきたい」と三浦弘子部長は言います。女性部が用意したレシピには、それぞれの料理のことが分かりやすく記されていました。部員たちのリードで手際よく調理が進められていきます。「素人なので、各家庭の味がある」ことを前提に、皆で味見をしあいながら、1時間ほどで海の香りいっぱいの献立が出来上がりました。部員たちも混じつて座った各テーブルでは、海の行事や料理についての質問も交わされ、楽しくおいしく食事が進みます。「震災前と同じだけの活動はできていませんが、これから徐々にこうしたい」と三浦部長。2月には石巻市東支所女性部が同じ場所で行う予定です。

極上ノリを受け継ぎつなげる精鋭



矢本支所 組合員数 62 人、うち准 38 人。職員は 4 人。販売取扱いは、平成 27 年度で約 5 億 1000 万円。うち 85%ほどが乾ノリ。ほかに小型定置、ホッキ、ワカメなど。ノリの品質には定評があり、震災前は 6 年連続皇室献上を果たし、昨年も準優勝している。

ノリ生産に尽力

東松島市の基幹産業、乾ノリ生産。矢本支所では現在 12 人が 3 人ずつグループを結成し、補助金を利用して 4 棟の施設を建てて生産している。互いに切磋琢磨し、よりよいものを目指している。採苗のときから気を抜くことなく、地元の言葉

三浦正信運営委員長



錦田勇一支所長



矢本

支所を訪ねて

北上町十三浜

佐藤栄記運営委員長



武山さち子支所長



北上町十三浜支所 組合員数 272 人。うち准 185 人。職員は 3 人。販売取扱いは平成 27 年度で 3 億 9550 万円（税抜き）。うち約 4 分の 1 が養殖塩蔵ワカメ。生ワカメ、生めかぶ、元茎を含めるとワカメで半分を占める。ほかにホタテ、アワビ、塩蔵コンブなど。



北上川の栄養と荒波

昨年 10 月に事務所を新築したばかりの北上町十三浜支所。以前は海のすぐ前で、漁船の動きも見えたが、旧事務所の場所が危険区域になってしまい、海が見えないところに建てざるを得なかった。

「1 年のうち、忙しいときに非常に集中している」と話す佐藤栄記委員長

メが採れることで県内外に有名。早い人はそろそろ生出しを始める。北上川が運ぶ栄養と、荒々しい外洋、透明度の高い海が育むワカメは肉厚で歯応えがよく、共販でも長年最高級の評価を受けてきた。

組合員は震災で 30 人超が減り、現在は高齢化も課題のひとつ。まだ仮設住宅に住んでいる人も多く、人手の確保も震災前に比べれば苦労している

「自然相手の販売で、思った以上にその自然が変わっていつている。希望は相場。われわれの商売は、採れても採れなくても、高くても安くても経費は同じだから」と佐藤委員長。現在、ワカメは順調に「おがって」いる。今年こそ十三浜のワカメならではの品質と高値を期待したい。

「海は温暖化が進んでいるので、北方系のもはだんだん厳しくなっていくかもしれない。それに代わるような新しいものがあれば」と武山支所長。青年部ではヒジキの採苗試験なども始めている。

「海は温暖化が進んでいるので、北方系のもはだんだん厳しくなっていくかもしれない。それに代わるような新しいものがあれば」と武山支所長。青年部ではヒジキの採苗試験なども始めている。

「海は温暖化が進んでいるので、北方系のもはだんだん厳しくなっていくかもしれない。それに代わるような新しいものがあれば」と武山支所長。青年部ではヒジキの採苗試験なども始めている。

消費変化も健康強み
ノリの需要の主流は、家庭用よりも業務用にシフトしてきた。食体系が

変わるなか、三浦委員長は「知恵をしぼり展開していくと、業界として決して斜陽ではない。やはりおいしい、健康にもいいものだから」と話す。ノリは 95%ほどが共販。残りは生産者が自分で作ったものを販売している。板ノリだけでなく、バラ干し、塩ノリなど個々に工夫するなか、漁協としてこうした 6 次化を支援する体制を整えられればと願っている。

「海は温暖化が進んでいるので、北方系のもはだんだん厳しくなっていくかもしれない。それに代わるような新しいものがあれば」と武山支所長。青年部ではヒジキの採苗試験なども始めている。

「海は温暖化が進んでいるので、北方系のもはだんだん厳しくなっていくかもしれない。それに代わるような新しいものがあれば」と武山支所長。青年部ではヒジキの採苗試験なども始めている。

「海は温暖化が進んでいるので、北方系のもはだんだん厳しくなっていくかもしれない。それに代わるような新しいものがあれば」と武山支所長。青年部ではヒジキの採苗試験なども始めている。

「海は温暖化が進んでいるので、北方系のもはだんだん厳しくなっていくかもしれない。それに代わるような新しいものがあれば」と武山支所長。青年部ではヒジキの採苗試験なども始めている。

今後の浜を見つめて
震災時、築後わずか 2 年だった事務所は、なんとかふんばった。倉庫や、建て直して 1 年もたないスタンドも被災。資産はマイナスとなって

「海は温暖化が進んでいるので、北方系のもはだんだん厳しくなっていくかもしれない。それに代わるような新しいものがあれば」と武山支所長。青年部ではヒジキの採苗試験なども始めている。

「海は温暖化が進んでいるので、北方系のもはだんだん厳しくなっていくかもしれない。それに代わるような新しいものがあれば」と武山支所長。青年部ではヒジキの採苗試験なども始めている。

「海は温暖化が進んでいるので、北方系のもはだんだん厳しくなっていくかもしれない。それに代わるような新しいものがあれば」と武山支所長。青年部ではヒジキの採苗試験なども始めている。

「海は温暖化が進んでいるので、北方系のもはだんだん厳しくなっていくかもしれない。それに代わるような新しいものがあれば」と武山支所長。青年部ではヒジキの採苗試験なども始めている。

「海は温暖化が進んでいるので、北方系のもはだんだん厳しくなっていくかもしれない。それに代わるような新しいものがあれば」と武山支所長。青年部ではヒジキの採苗試験なども始めている。

最後に、矢本支所を支える 3 人の職員を紹介。相澤敏晴さん「毎年目標を決め、自己啓発のために資格試験を受けている。和やかな空気がこの支所のいいところ。会話を楽しみながら互いの考え方を学んでいます」。

「海は温暖化が進んでいるので、北方系のもはだんだん厳しくなっていくかもしれない。それに代わるような新しいものがあれば」と武山支所長。青年部ではヒジキの採苗試験なども始めている。

「海は温暖化が進んでいるので、北方系のもはだんだん厳しくなっていくかもしれない。それに代わるような新しいものがあれば」と武山支所長。青年部ではヒジキの採苗試験なども始めている。

「海は温暖化が進んでいるので、北方系のもはだんだん厳しくなっていくかもしれない。それに代わるような新しいものがあれば」と武山支所長。青年部ではヒジキの採苗試験なども始めている。

「海は温暖化が進んでいるので、北方系のもはだんだん厳しくなっていくかもしれない。それに代わるような新しいものがあれば」と武山支所長。青年部ではヒジキの採苗試験なども始めている。

「海は温暖化が進んでいるので、北方系のもはだんだん厳しくなっていくかもしれない。それに代わるような新しいものがあれば」と武山支所長。青年部ではヒジキの採苗試験なども始めている。

当組合直営店で都心の消費者に PR

東京都心に、宮城県産水産物の情報発信拠点として、この冬 2 つの店舗がオープン。仕事帰りのビジネスマンなどに好評を得ています。

新橋 MIYAGIオイスターダイニング

当組合直送の新鮮でおいしいブランド牡蠣を中心としたメニューを提供。産地別の厳選ブランド生牡蠣食べ比べをはじめ、アラカルトや宴会コースなど。主催は㈱ジェイ・ダヴリュウ・エー。当組合や県、県酒造協などが協力。

開催期間：2016 年 11 月 30 日～2017 年 3 月 27 日 営業時間：17～23 時

開催場所：東京都港区新橋 2-11-8 セントランス 2 ビル B2F プラチナフィッシュ Ex

大手町「宮城県漁協直送 宮城牡蠣の家 大漁や」

「宮城牡蠣の家」開設 3 回目の今シーズンは、当組合が主催となって出店。カキだけでなく、県内の主要養殖水産物を当組合から納品してメニュー化し「宮城県漁協直送」「産地直送」をコンセプトに首都圏消費者に県内水産物の魅力を訴えています。1 月 13 日から専用サイトも公開しています。

開催期間：2017 年 1 月 13 日～4 月 7 日（予定）
営業時間：平日は 17～23 時、土日・祝日は 12～21 時

開催場所：東京都千代田区大手町 1-7-2 東京サンケイビル 1F イベントスペース「フラット」



好評開催中の「宮城牡蠣の家 大漁や」